

## 水田作経営における春まきたまねぎの導入条件

### 【1 成果の要約】

水田作経営における春まきたまねぎの導入条件は、収益向上のため単収 5t/10a を確保すること、収穫作業を適期に行うため適切な栽培規模を設定すること、収穫から調製までの一連作業を遅滞なく進めるため効率的な作業工程管理を行うことです。

### 【2 成果概要】

(1) 県内の大規模水田作経営における春まきたまねぎ導入実証において、開発技術の導入により単収 5t/10a の確保が可能であることが明らかとなっています。なお、歩留率向上や収穫作業の適期実施及び収穫から調製までの作業量を軽減するため、雑草と腐敗球等の抑制に注意する必要があります。

(2) 大規模機械体系（栽培面積 12ha を想定）における春まきたまねぎ栽培の収穫から調製までの 10a 当たり作業時間は約 25 時間であり、総作業時間の 6 割以上を占めます。特に 7 月下旬から 8 月上旬は作業工程が重なり必要な作業人員もピークとなるため、効率的に作業を進める必要があります。

表 1 収穫から調製までの作業時間と組作業人数（大規模機械体系）

| 作業工程名 | 7月    |       | 8月    |      | 9月   | 作業時間<br>(時間/10a) | 組作業人数 |       |
|-------|-------|-------|-------|------|------|------------------|-------|-------|
|       | 中     | 下     | 上     | 中    | 下    |                  | ハ     | レ     |
| 収穫    | 根切り   | [Bar] |       |      |      | 0.35             | 2人    |       |
|       | 反転    | [Bar] |       |      |      | 0.70             |       |       |
|       | 集積    | [Bar] |       |      |      | 0.47             |       |       |
|       | 拾上げ   | [Bar] |       |      |      | 3.45             | 1人    | 4人    |
|       | 搬出・運搬 | [Bar] |       |      |      | 1.48             | 2人    |       |
| 調製    | [Bar] |       | [Bar] |      |      | 18.67            | 1人    | 5人    |
| 合計    | 0.29  | 5.38  | 5.38  | 5.26 | 5.08 | 3.73             | 25.12 | 6人 9人 |

(3) 単収 5t/10a における春まきたまねぎの農業所得は、産地交付金や補助事業が無い場合でもプラスとなります。また、現状の産地交付金や補助事業が有る場合、単収 3t/10a 以上が必要となります。

表 2 10a 当たり農業所得（大規模機械体系）

| 産地交付金(50千円)     | 有     | 無     |
|-----------------|-------|-------|
| 補助事業(たまねぎ機械1/2) | 有     | 無     |
| 粗収益 (A)         | 350千円 | 300千円 |
| 経費 (B)          | 264千円 | 290千円 |
| うち減価償却費         | 34千円  | 61千円  |
| 農業所得 (A-B)      | 86千円  | 10千円  |
| 損益分岐点単収         | 2.9 t | 4.8 t |

(4) 水田作経営における春まきたまねぎの導入条件とその条件達成のポイントは表 3 のとおりです。

表 3 水田作経営における春まきたまねぎの導入条件と条件達成のポイント

| 導入条件 |                                       | 条件達成のポイント |  |
|------|---------------------------------------|-----------|--|
| ア    | 収益向上のため<br>単収5t/10a確保                 | 技術面       | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ほ場準備段階の排水対策, 砕土率の確保</li> <li>◆ 低コストかつ規模拡大に対応可能な自家育苗</li> <li>◆ 作期拡大可能な複数品種の組合せ</li> <li>◆ 適期作業による雑草対策</li> <li>◆ 害虫被害と腐敗を抑制する病虫害対策</li> </ul> |
| イ    | 収穫作業を適期に行うため<br>適切な栽培規模の設定            | 経営面       | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 導入目的や経営内の労働力に応じた機械化体系と技術力を踏まえること</li> <li>◆ 導入機械の性能（作業可能面積）と価格（導入下限面積）を踏まえること</li> </ul>  |
| ウ    | 収穫から調製までの一連作業を遅滞なく進めるため<br>効率的な作業工程管理 | 経営面       | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 必要な労働力の確保</li> <li>◆ ほ場毎の生育ステージや各作業の進捗状況を考慮した人員配置, 役割分担, 作業指示</li> </ul>  |

### 【3 留意事項】

詳細は「春まきたまねぎ栽培マニュアル」及び春まきたまねぎ関連の試験研究成果をご覧ください。

※ 本成果は農研機構生研支援センター革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）「寒冷地の水田作経営収益向上のための春まきたまねぎ等省力・多収・安定化技術の開発とその実証」による成果です。

担当研究室 企画管理部 農業経営研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4404

FAX. 0197-68-2361